

いったものを解決したいな、と思いながら、「広島ボランティアフェスティバル」というのを計三回開催したりしましたね。

子どもを笑顔に

そういった福祉の活動とか、PTAをやっていると、子どもたちが、笑顔なんだけど笑顔じゃない。もちろん楽しいことをやっているときは笑顔なんだけど、それは楽しいことをやっているからであって、本当の笑顔じゃない、ということに気がついた。親を笑顔にしたいから子どもは無理矢理笑顔になつて、みたいなところがある。経済状況が落ち込んでいる状態で、いつリストラされるかわからない、自分の会社がなくなるかもしれない。こんな世の中で親が笑顔になれるわけじゃない、とも思った。そんな中でも少しでも笑顔になるために、パワーセンター(業種別に複数の大型ディスプレイセンター専門)に行ったり、安いもの買って少しでも家計を楽にしたり。でもその行く先にはやっぱり子どもの笑顔は見えてこなくて、いまの状況の中で、どうしたらお父さんやお母さんを笑顔にすることができるだろうか、つてずつと考えていた。

そういう子どもを笑顔にしたいということと、自分の会社をなんとかしなきゃいけないっていうことは、思いっきりぶちきてたのね。一緒にしちゃいけないと思つた。でもある日突然、これを一緒にしてもいいんだっていうことに気がついた。お父さんやお母さんを笑顔にすること、自分の会社をしっかり守ること。その共通点は「生ビール」だ、つていうふう^に自分の中で行きついた。

ここで「ビールスタンド重富(店舗横にある倉庫の一部を改装し、二〇二二)」を始めるようになって、それははつきり自分の中で確信に変わったんですけど、人間つておいしいものを食べたり飲んだりすると、自然と笑顔になるんですよ。その日ちよつとつらいことや悲しいことがあつたとしても、おいしいものを飲むとふとわれに返つて、笑顔になつてしまふ。そして、その笑顔を見た周りの人もまた笑顔になつていく。笑顔つて連鎖するんだなあ、と。実は嫌な顔も連鎖するから、誰かが嫌な顔しているとみんなが嫌な雰囲気になつていく。でも誰かひとりが笑顔だと、みんなが笑顔になつていく。つていうのを、まあずつとわかつてはいたんだけど、本当にそういう場ができるつていうのを確信できた。

結構みんな仲良くなつていくんだよ、勝手に(笑)。全然知らない人どうしが、ビール飲んで、「おいしいですよね。これ、飲んでみますか?」みたいな。女性の方から知らない男性に、自分が飲んでるビールを「飲んでみますか?」つてニコニコしながら差し

出してるわけだから、ふつうありえないでしょ。

しんどいことって毎日たくさんあって、緊張の糸をずっと張りつめてると、ほんのちよつとしたことで切れちゃう。はさみでぶちって切られるんじゃないかって、たぶん鳥の羽が触れるだけでも切れちゃうぐらいの緊張の糸。だから、その糸を少しでも一日一杯のビールで緩めることができたなら、いろんなことが変わってくるような気がするんですよ。

不登校とか、いじめとか、子どもが抱えるいろんな問題の原因ってたぶん親にあると僕は思っている。親がしっかりとかたい土台であれば、上でどれだけ子どもが飛び跳ねても大丈夫だから、飛び跳ねればいいんですけど、土台がしっかりとできていない。親が精神的にまいってしまっている。「とうちゃん、学校行きたくない」「そうか、とうちゃんも本当は会社行きたくないんだよ。だからおまえも行かなくていいよ」って一緒にあってふにゃつと落っこってしまふ。いろんな問題が解決できてない原因を、僕はそこに見い出している。なので、親の緊張をちよつと緩めて、少し土台をかたくしてあげる。子どもにきちんと面と向かって向き合うことができる親を育てることで、子どもは本当に笑顔になれるんじゃないか、と。そのために、僕が一番得意で、重富家が自分の商売として三代もDNAとしてつないできた、「生ビール」っていうものが役に立ってるんじ

ゃないか、という考えに至ったのがほんとにこの最近で。この何年かまで一緒にしたいとはずつと思ってたんです。それは口で言っただけだったのが、実際にやってみたら本当にそうなんだっていうのを確信した。

広島中のビールをおいしくするっていうのが、いまの僕のミッションですけど。お父さんやお母さんの仕事が終わったときに、明日も頑張ろうって思えるようなビールが広島で飲めたら、心の糸の緊張がちよつとずつ緩くなって、いいまちになるだろう、と僕は思っています。ビールがおいしいまちっていうような評判になれば、観光客もいっぱい来る、社内旅行もいっぱい来る、勝手に広島の経済が回復する。設備投資費〇円。新しいものをつくるわけじゃないんで。それをやっていくと、僕が本当に願っていた、子どもが笑顔になるまちにできるんじゃないか、と思ってる。

規制緩和が引き起こしたもの

このまちが廃れたら、うちの店も廃れる。だから、うちのお店だけが繁盛するっていうのは、僕の中では考えられない。いま僕がここで商売できてるのは、うちの父や祖父がきちんと商売してたからなんです。まわりの人に嫌われない商売、まわりの人に愛